

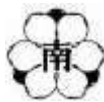
令和3年度 ESD 推進校 実践のまとめ



鶴牧中学校



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



南鶴牧小学校



大松台小学校



鶴牧中学校区





【目次】

令和3年度 鶴牧中学校区 取組概要 1

【各校の実践】

□多摩市立鶴牧中学校 2

「防災・減災教育プログラム」



□多摩市立南鶴牧小学校 4

「マイタウンプロジェクト」



□多摩市立大松台小学校 6

「食とわたしたちのくらしをかんがえよう」



□成果と課題 8

令和3年度 ESD推進校 取組概要



1 取組方針

★パートナーシップでSDGsの目標を達成する

(長期目標)様々なパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。(SDGsの目標17-17)

(中期目標)地域人材や地域環境資源を活用した学習活動を積極的に推進することにより、児童・生徒がパートナーシップの必要性や多摩市で育つ意義を見出し、未来を築く人材となるよう育成する。

2 取組設定の理由

(1)多摩市鶴牧地域は、ニュータウン計画により開発された住宅地が大部分を占める。様々な社会的役割を担う人材が居住しており、地域人材とのパートナーシップを得て教育活動を進め、2050年に向けた児童・生徒の資質・能力、態度の向上を図る。

(2)乞田川を源流とした平安時代からの人々の暮らしも点在する地域である。地域人材や地域環境資源を活用し、郷土の歴史や財産、ニュータウンの今昔、生きる知恵を児童・生徒が学ぶことで、2050年に向けた児童・生徒の資質・能力、態度の向上を図る。

(3)児童・生徒が教育活動で得た知見を小中学校間や地域に発信して交流を図り、共に未来を考えていくことで、エリア・パートナーシップを構築する。

3 ESDを通して育成する資質・能力

【鶴牧中】

《知識・技能》情報を整理し実生活に生かす力

《意思・態度》課題解決に積極的に関わろうとする態度

《探究する力》新たな価値を自ら創造する力

《思考力》未来像を予測して考えを深め改善する力

【南鶴牧小】

《知識・技能》調査や活動の技能

《意思・態度》合意形成し協力・協働する態度

《探究する力》課題発見・解決能力

《思考力》論理的な思考力

【大松台小】

《知識・技能》情報を取得し活用する能力

《意思・態度》多様性を尊重し共生する態度

《探究する力》地域や社会の活動に参加する力

《思考力》批判的な思考力

4 実践のポイント

【鶴牧中】

- ・災害発生時における自助・共助について理解を深めたり、自らの考えを発信する力を高めたりするとともに、自らの安全確保を図りながら地域の一員としての自覚をもち、主体的・積極的に行動しようとする態度を、地域の方々と共に育てる。

【南鶴牧小】

- ・持続可能な社会の創造に向け、地域と共に一人一人が実践できることを計画し継続する。
- ・環境資源、地域人材、人材資源との「かかわり」や「つながり」を通して多様な探究活動を行う。
- ・学んだことを継承するとともに、地域にも発表し、学校全体・地域全体で学びを深める。

【大松台小】

- ・地域の自然・街・環境問題・郷土の歴史を理解し、よりよい未来や社会のためにできることを考える。
- ・地域人材や地域資源を活用し、児童が探究的な見方・考え方を深める学習活動に取り組む。

多摩市立鶴牧中学校

- 1 単元名（教科・領域）・学年
防災・減災教育プログラム
（総合的な学習の時間） 第1学年
- 2 ESDを通して育みたい資質・能力
 - 地域や社会に関心を持ち、主体的・積極的に課題の解決に取り組もうとする態度
- 3 単元の目標
 - 災害発生時における行動を想定するとともに適切に判断し、自助・共助の意識を持ち、主体的に行動しようとする態度や実践力を育てる。



4 単元計画の概要【全12時間】

- (1)災害時に命を守る行動について考える。
 - ・「防災ノート～災害と安全～」等を活用して災害に関する基本的な内容を理解する。



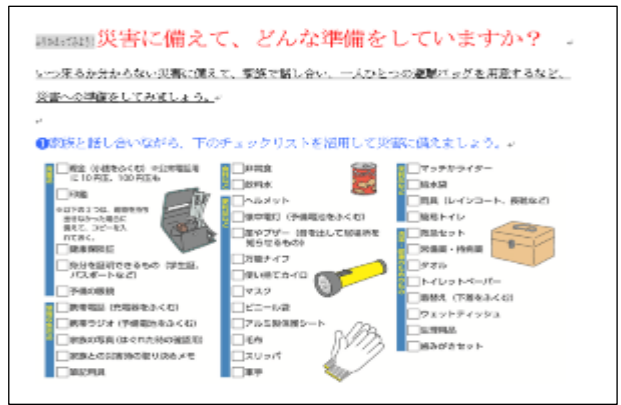
- (2)「東京マイ・タイムライン」を活用して考える。
 - ・「東京マイ・タイムライン」等を活用した震災に関する学習を通して、発災時における自らの行動について考え、理解を深める。



- (3)防災デイキャンプを通して考える。
 - ・日本赤十字社と連携した防災デイキャンプを通して、災害時における対応を学習する。



- (4)震災時における自らの行動について考える。
 - ・本単元において学習してきた内容とともに安全指導や避難訓練、教科における関連する内容を総合的にまとめ、自らの行動について考える。



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第8・9時】

(1)本時の目標

- ア 日本赤十字社によるオンライン講話を聞き、発災時における自助・共助について考える。
イ 応急手当の方法や新聞スリッパ作りを通して、実践的行動力を高める。

(2)授業の展開

導入

災害発生時に、どのようなことが起こるのか、予想する。

1



1

展開

①日本赤十字社による講演を通して震災における基本的な内容を理解する。

2



2

②身近にあるもの（バンダナ等）を活用して、簡単な応急手当を行う。

3



3

③新聞紙を活用して、ガラス等が飛散した部屋でも移動できるスリッパ作りを行う。

4



4

本時において学習した内容を振り返るとともに、発災時における自らの行動をまとめる。

5



5



5

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・防災 DAY キャンプを通して、自分は災害時に何ができるかを考えさせられました。
- ・今回の学習を通して、気づき、考え、行動する。大きな災害のとき、自分の身を守るためにも、周囲の様子、周りの人の様子を見て、自分にできることを悩まず行動に移す。誰かが助けてくれるのではなく、自分で自分を助けるという意識をもって生きていきたいと思った。
- ・今回、身近な物で自分の身を守れるということを学びました。ラップはねじってロープ代わりにしたりお皿を汚さないために上からかぶせたり、新聞紙はスリッパにして暖かく過ごせるようにしたり、様々な工夫ができることに驚いた。

単元の学習を通して、防災や減災に関する意識を向上させるとともに、自助や共助についての理解を深め、災害発生時においても自ら正しく判断し、行動できる資質や能力を高めることができた。

(2)課題

災害発生時におけるシミュレーションを様々な状況に応じて体験的に行っていくことにより、災害時に地域の一員として主体的に行動する態度や実践力を育成することができる

多摩市立南鶴牧小学校

1 My Town Project マイタウンプロジェクト

～地域に対してできることを考えよう～

(総合的な学習の時間) 第5学年

2 ESDを通して育みたい資質・能力

■地域や社会に関心を持ち、主体的・積極的に課題の解決に取り組もうとする態度

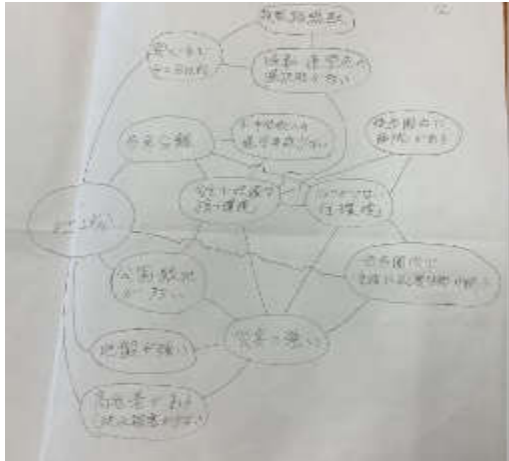
3 単元の目標

■南鶴牧地域の良さや課題に目を向け、今の自分たちにできることを考え、一人一人が自分事として捉える意識を持ち、主体的に行動しようとする態度や実践力を育てる。



4 単元計画の概要【全28時間】

- (1)「私たちの住む街はどのような町か。」考える。
 - ・各自が思いつくままに考えを出す。
 - ・保護者の方にも南鶴牧地域についてウェビングマップを作製してもらう。

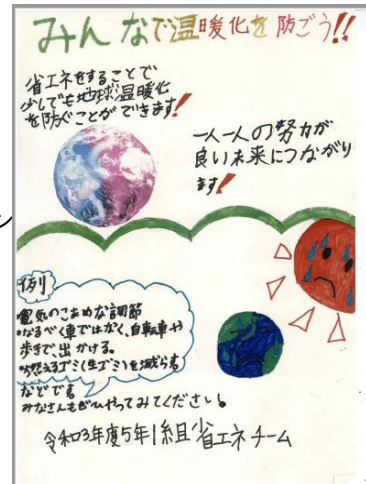


- (2)ゲストティーチャーの方をお招きして、地域について詳しく知る。(探究活動)
 - ・多摩市の歴史や自然、伝統的なもの、またそれらを保存しようとしてくださっている方々について
 - ・公園の様子や外来種について。



- (3)今の自分たちができることを考える。

- ・ゴミ問題
- ・自然の移り変わり
- ・西公園の生き物
- ・歴史を伝える
- ・花壇の手入れ
- ・生物のガイドライン
- ・省エネ
- ・落書き
- ・道案内
- ・イベント、レク
- ・高齢者と交流



- (4)実際にそれぞれが考えた計画を実行し、振り返り、さらに自分たちができることについて考える。
- ・計画から行動までを1サイクルとし、1サイクル後に振り返り、互いのアドバイスを取り込んで、改善させさらにもう2サイクル目を目指す。



5 授業の紹介【第16時～第20時】

(1) 本時の目標

自分たちが決めた地域に対してできることについて、具体的な計画を立てることができる。

(2) 授業の展開

導入

地域に対して行うことを確認する。 1

展開

① グループごとに計画を立て、具体的な内容を計画する。 2

② それぞれのグループの計画を発表し合い、意見の交流をして、修正を加える。 3

③ 計画の最終版をもとに、実行に移す準備を行う。ポスターなどを作成する。 4

まとめ

④ 本時において学習した内容を振り返るとともに、地域に対する自らの思いをまとめる。 5

仲間と協力して出来ること！

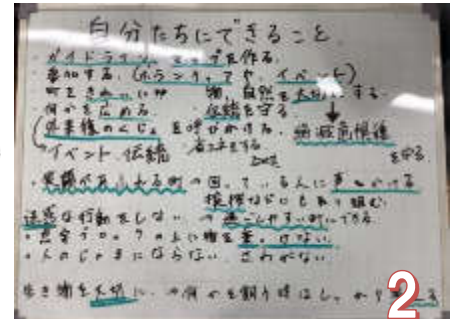
イベント

誰に？

・地域の人に（小さい子～高齢者の方まで）

どうして？

・ずっと笑顔になってほしいから。コロナであまり外に出たり遊びに行ったり出来なくて、悲しいことがたくさんあるから笑顔もあまりしないと思うから。せめて地域のイベントでも少しだけでも笑顔になってほしいから。



住みやすい町作り

- ・ごみを燃やすときに出る二酸化炭素を減らして、多摩市の空気をきれいにするために、自分の家でできるだけ**ゴミを減らすように心がける**。また、**ポイ捨てをしないようにしてほしい**ことをポスターを作ることで家族に伝えて、家族から知り合いの人に伝えてどんどん広げていく。
- ・お年寄りが住みやすいように困っているお年寄りがいたら、**声をかけて助ける**ようにする。**また、挨拶をして人との付き合いをよくする**。

6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価（意見・感想等）

- ・ゲストティーチャーの方のお話を聞いて、この地域は森だったことと、ニュータウン計画により住みやすい町になったことが分かりました。住みやすい町であり続けるために、ポイ捨てをなくすなど、環境問題を解決したいと思った。
- ・自然を守るためにたくさんの方が活動していることが分かりました。持続可能な町であってほしいです。
- ・地域についてのウェビングマップでは、自分が書いたものと比べ、おうちの人は町についてよく知っていて愛着があるなど思いました。
- ・老人会との交流を通して、ふれあいの大切さや楽しさを実感し、次の交流も楽しみに became。

(1) 成果

単元の学習を通して、地域の良さや課題に対する意識が向上し、鶴牧地域の良さや課題に対する自分なりの理解を深め、友達と協力してどんな行動をおこしたいかをたくさん話し合うことができた。全員が『本気で考え本気で行動する』ことに向かうことができた。

(2) 課題

児童とつながれる地域人材の開発が足りなかった。もっといろいろな方の話を伺いたかった。

多摩市立大松台学校

1 単元名（教科・領域）・学年

「食と私たちの暮らしを考えよう」

2 ESDを通して育みたい資質・能力

- データや事実、調査結果を整理し、解釈するとともに、情報を活用したり、学びの成果を実生活に生かしたりする能力
- 課題について興味・関心をもち、課題の解決に自ら積極的に関わろうとする態度
- 多面的・総合的に問題を捉え、その解決の構想を立てて取り組むとともに、新たな価値を創造できる能力

3 単元の目標

食とエネルギーの問題について専門家や地域の人々と関わりながら、体験したり調べたりすることで、食の価値とエネルギーの大切さに気づき、これからの自分と環境とのよりよい関わりを考えることができるようにする。

4 単元計画の概要【全 30 時間】

- (1) 米作りに関する基礎的な知識を学ぶ。
(生活協同組合パルシステム東京)



- (2) 米作り体験を行う。(田植え)
(水田愛耕会・市役所公園緑地課)



- (3) 米作り体験を行う。(収穫)
(水田愛耕会・市役所公園緑地課)



- (4) 米作り体験を通して学んだ水田の役割や食品ロスなどの問題から、環境問題に着目して学習したことをまとめる。



5 授業の紹介【今何ができるかを考える 第1時～6時】

(1)本時の目標

- ・米作りをする活動を通して、身の回りの環境について考える。
- ・環境を大切に、持続可能な社会にするために自分にできることを考える。

(2)単元の展開

導入

○お話を振り返る。
 ・生活協同組合パルシステム東京
 ・水田愛耕会 など 1



展開

① お話を基に興味・関心をもったこと
 とや米に関する課題を見付ける。 2

② 課題について調べる。
 ・米の自給率 ・農機具
 ・米の品種と産地 ・稲の伝来
 ・水田の生物 など 3



③ 調べたことを、まとめる。
 ・新聞
 ・ロイロノート 4



まとめ

○ 調べたことを発信する。
 ・新聞の掲示
 ・ロイロノートを用いて発表 5



6 本単元を通して得られた成果と課題

□児童・生徒の学習の評価(意見・感想等)

初めは、泥まみれになりながら代掻きや田植えを行い、好奇心から始まった稲作体験だった。しかし、代掻き、田植え、案山子づくり、防鳥対策などの作業を行っていくうちに、様々なことを考えるようになった。自分たちの手で植えた苗がすくすくと育ち、毎日食べているお米がどれだけの時間と手間がかかっているかを知るきっかけとなり、食べ物を大切にする心や作り手へ感謝する気持ちをもつことができた。また、台風や大雨などの自然災害への対策も必要だと感じたことや水田のもつ役割なども意識するようになり、環境へも目を向けるようになった。

(1)成果

稲作体験を行う中で、台風や大雨などの自然災害へと目を向けたり、大切に育てたお米を食べ残すといった食品ロスの問題について考えたり、環境にも着眼点を置き、考えを広げることができた。

(2)課題

稲作体験では、地域人材が欠かせない存在であり、感染症対策を講じながら地域人材を活用する難しさを感じた。



ESD推進校の成果と課題

1 各学校の成果と課題

□鶴牧中学校

【成果】

- 日本赤十字社と連携した「防災デイキャンプ」や、「東京マイ・タイムライン」の活用等により、災害発生時における自助や共助についての理解を深めるとともに、地域の一員としての自覚をもち、正しく判断し、主体的に行動する意識を高めることができた。

【課題】

- 災害発生時におけるシミュレーションを様々な状況に応じて体験的に行うことにより、災害時に地域の一員として主体的に行動する態度や実践力を育成する必要がある。

□南鶴牧小学校

【成果】

- 地域の歴史や良さを知ると同時に、改善したいことにも目を向け、地域の一員であることを自覚しながら、自分事として考えるようになった。
- 友達と協力して考えを出し合い、町を良くしていきたい気持ちを互いに深めることができた。
- 家族をはじめ、地域に住む方々につながる温かさや大切さに気が付き、自ら交流しようとする発信力が付いた。

【課題】

- 「落書きやポイ捨てのない町を」などの呼びかける気持ちは強まったが、実際に自らアクションをおこそうとする方法が浮かばず苦勞した。
- ハロウィン祭りなど最近の行事ではなく、地域にある伝統行事への参加の体験が少なく、昔から伝わる良さを継承しようとする思いにまで至らないところがあった。

□大松台小学校

【成果】

- 台風や大雨など、自然災害へと目を向けることができるようになった。
- 自分たちで米作りをすることで農家の苦勞や努力を知ることができた。
- 食品ロスや環境問題について考えを深めることができるようになった。

【課題】

- 地域の田んぼでの米作りは教員だけで実施することが難しいと改めて実感した。
- 感染症対策をしながら、地域の人との関わりをもつことの難しさを再確認した。



2 中学校区の取り組みの成果と課題

【成果】

- 中学校区で取り組み目標を明確にするために話し合いの機会をもち、各校の教育活動及び指導計画の目標を明確にすることができた。
- 中学校区で具体的な指導内容について話し合い、小中学校での取り組みを相互に理解することができた。
- 小中学校9年間の学びを通して、児童・生徒の育成を図ろうとする教員の意識を高めることができた。

【課題】

- 教員間で学習成果を確認し合うだけでなく、児童・生徒の交流による成果発表会等を実施し、小中学校9年間での学びを児童・生徒、教員で理解できる場を設ける必要がある。
- 小学校での学びを中学校で生かすことができるように、小学校同士での活動内容を確認するとともに、中学生となった時に活動できる素地を小学生の段階でどの程度身に付けておけばよいか、より明確な目標を3校で話し合う必要がある。

3 次年度以降の取り組みについて

○小中連携したESDの推進

- ・教員の交流会において、指導計画を基にしたESDの実践状況を確認し、地域の環境資源を小中学校間で共有する。
- ・児童・生徒同士で学習発表できる場や、地域の人々に取り組みを紹介する場を設け、意見交流会をして学びを深めていくために指導計画等を見直していく。
- ・評価規準（ルーブリック）を学習活動の評価として活用していくことを各学校で取り組んでいくように促す。

○SDGsを踏まえたESDの推進

- ・学習内容がSDGsのどの目標が達成できるのか明らかにし、指導計画の充実と指導内容の検討をしていく。
- ・児童や生徒だけでなく、地域や保護者にもSDGsの意義や意味について共通理解できる機会を確保できるようにする。

○「多摩市子どもみらい会議」の充実

- ・地域との関わりを身近に感じられるような活動を積み重ねていく。
- ・中学校区での学びの関わりを深め、9年間で学んでいく意識を高める。

